

テーマ

何が格差の解消を阻んでいるのか

適用分野

社会心理学 差別 偏見
社会的公正 人権 福祉



研究名称

格差や不平等を生み出す心理的要因の検討

氏名所属

池上知子 特任教授
文学部人間科学科

内容

●特徴

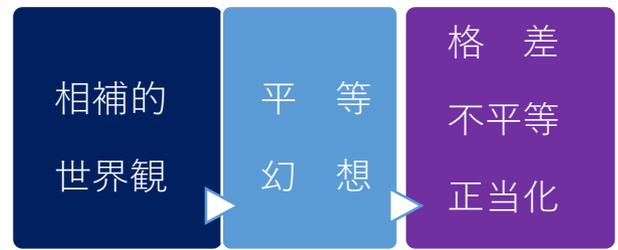
社会には、本人に原因や責任があるわけではないのに、貧困や難病、偏見や差別に苦しんでいる人が大勢います。私たちは、そのような人たちに救いの手を差し伸べたい、差し伸べるべきだと思う一方で、そうした思いとは裏腹にそのような人たちのことを見て見ぬふりをしたり、あるいは理不尽で不条理な現実を容認してしまうところがあります。いったい、それはなぜなのでしょう。

私は、このような人間の心理の深層に迫りたいと考え、上記のような問題意識に基づいてなされた国内外の研究を取りまとめ、小著『**格差と序列の心理学—平等主義のパラドクス**』を2012年に上梓しました。そこでは、世界は公正であるべきだ、すべての人が平等に扱われるべきだという願いを持つ人ほど、格差や差別の温床となる社会構造の維持に知らず知らずのうちに加担しているという心の表層と深層の乖離に起因する皮肉な現象のあることを論じました。私は、このことをまず多くの人に知ってもらい、格差や不平等、差別や偏見の解消に向けて何がなされるべきかを問いかけたいと思っております。

●研究内容

私が専門とする心理学、とりわけ社会心理学では、私たちには、社会にはびこる不合理から目をそむけることによって心理的安寧を得るための心的装置が埋め込まれていることをが示されています。私はそのなかで相補的世界観と呼ぶべき観念形態（あらゆる対象はある次元で劣っていても別の次元では優るものであるという考え方）に着目し、これが平等幻想を生成するために問題のある社会体制が正当化され、現状を変革しようとする動機を阻害することを文献調査や質問紙調査（オンライン調査を含む）を実施し検討を続けています。

そして、人々が平等幻想から脱却し、現行の社会体制を変えるよう動機づけられるにはどうすればよいか、その答えを探し求めています。



平等主義のパラドクス

キーワード

格差、不平等、偏見、差別、体制正当化、体制変革、社会的公正、相補性

連携方法

- 講演
- 研修
- 研究相談
- 学術調査
- コメント
- 共同研究